

平成 30 年度 学校経営方針

小平市立小平第二小学校長 細萱 希彦

はじめに

本校は、明治 6 年 10 月文よ学舎として、現在の武道館の位置に設立されてから 146 年、その後、昭和 4 年 1 月 8 日「第二尋常高等小学校」として現在地に開校してから 90 年になる歴史ある学校です。

児童は 4 月 1 日現在で、通常学級 16 学級、506 名。知的固定学級若草 5 学級 33 名。難聴・言語障害通級指導学級 46 名（きこえ：10 名、ことば：36 名）在籍しています。総じて、素直で穏やかな児童が多く、物事に一生懸命取り組もうとする姿勢やバイタリティに溢れる姿が、学校生活の多くの場面で見られます。また、話の聞き方や挨拶の習慣が定着しつつあります。

その一方で、自ら学ぶ意欲、自ら考え正しく判断する力、既習事項を応用する力、基本的な学力、相手の気持ちを考えて行動できる思いやりの心を個々の児童の課題に応じて育てることが重要です。保護者や地域の方々と連携して、全教職員で協力して取り組みます。

保護者には、PTAを中心に、各種ボランティア活動を始め、教育活動、地域行事に積極的に協力していただいています。学校教育に対しては、思いやりや協調性などの豊かな心、自ら考え問題を解決する力、ルールやマナーを守る社会性、自分の考えを表現する力、各教科等の学力を高めてほしいという期待があります。さらに、子どもたちの安全についても重大な関心事です。

個人面談、学校公開、道徳授業地区公開講座、セーフティ教室を始め、日ごろから緊密に連絡を取り合い、児童の教育について、真剣かつ打ち解けて話し合える関係を築いていきます。

また、地域の方々は、学校を大切に作る気持ちを強くもっています。青少対を中心に、健全育成や安全指導のために様々な行事や安全パトロール等を実施していただいています。また、地域の協力者に農園を提供していただき、年間を通して農作物の栽培活動も行っています。地域の方々との交流を深め、学校と地域の協力体制を一層築いていくことが、本校の特色ある学校づくりのために欠かせません。

このようなことを踏まえ、小平市教育振興基本計画の理念のもと、本校の教育目標（考える子、やりぬく子、思いやりある子）の具現化を推進していくことが重要です。

そのために、以下の項目で学校経営方針を立て、全教職員の知恵と力を結集し、家庭や地域と連携を深めて、学校経営を進めます。

目指す学校の姿

子ども、保護者、地域から信頼され愛される学校

全ての教育活動は、信頼関係が基盤になって成り立ちます。子どもたちや保護者との信頼関係が築かれていれば、教育効果は倍増しますし、その逆であれば、教育効果は低下してしまいます。

学校が目指す姿は、「子ども、保護者、地域から信頼され愛される学校」に他なりません。そして、こうした学校づくりを実現するためには、子どもと教職員の何事も前向きに考え、取り組もうとする姿勢が不可欠です。

開校 90 周年テーマ

子ども、保護者・地域、教職員の目指す姿

みんな にこにこ 笑顔の二小

本校は、今年度が開校 90 周年の節目の年になります。開校 90 周年を祝すなかで、これまでの本校の歴史を振り返り、学校を支えてくださった卒業生、保護者・地域の皆様への感謝の思いや、これからの小平二小の発展を願う気持ちを表す一年にするべく、「みんな にこにこ 笑顔の二小」をテーマにあらゆる教育活動の充実を図ります。

子どもたちや教職員の姿を保護者や地域の方々に理解していただくためには、授業を積極的に公開することが大切です。特に、学校公開や道徳授業地区公開講座は、学校が子どもたちにどのような教育をしているのかを理解してもらう絶好の機会です。なお、今年度は、小平市研究推進校の指定を受け、「特別の教科 道徳」の研究を推進していきます。平成 31 年度には、研究発表会を計画しており、これも保護者や地域の方々に学校の取組について理解していただく貴重な機会になるものと考えています。

また、子どもと教職員、子ども相互の良好な人間関係を深めるとともに、家庭への連絡をきめ細かく行い、家庭と学校との意思の疎通を図るなど、子どもや保護者の期待や相談に誠実に対応していくことも重要です。

本校は、地域との交流が盛んです。地域の方々との交流、学校行事への招待、地域環境や施設の活用、地域行事への参加を積極的にして、地域との連携を一層進めていくことも大切です。

併せて、地方公務員としての服務事項を遵守し、保護者や地域からますます信頼され愛される学校を共に築きましょう。

小平市教育振興基本計画基本的施策

① 確かな学力の向上 ⑥ 教員の資質向上 ⑨ 地域教育の充実

「子ども、保護者・地域、教職員の目指す姿」を実現するために

「子ども、保護者・地域、教職員の目指す姿」を実現するためには、具体的にどうしていけばよいのでしょうか。

「子どもの目指す姿」を実現するために

子どもたちの笑顔のためには、日々の教育活動の充実が不可欠です。学級経営の充実、教科指導の充実、そして心の教育の充実が、子どもたちの満足感につながります。

1 児童が豊かに関わり合う学級経営

小学校においては、学級経営が一人一人の子どもの成長に大きく影響を及ぼします。東京都教育委員会は、授業力の構成要素の一つとして「統率力」を示していますが、子どもたちが学び合い、高め合える学級経営を具現化するためには、学級を集団として統率することが大切です。さらに、集団のなかで、一人一人の子どものよさを引き出し、子どもたち同士が豊かに関わり合いながら相互に認め合える関係を築くことが求められます。

また、学級経営が充実することで、教職員にゆとりができるとともに教育に対する姿勢が一層前向きになり、より多様な工夫を施して様々な教育活動に臨めるようになるなど、相乗効果をもたらされます。

小平市教育振興基本計画基本的施策

①確かな学力の向上 ③豊かな心の育成 ⑥教員の資質向上

2 達成感や成就感を感じさせる授業

学習指導要領が改訂され、あらゆる教科・領域等の指導において、「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の資質・能力を育成することが求められています。これらをバランスよく育てるためには、「主体的・対話的で深い学び（アクティブ・ラーニング）」を実現する授業づくりが大切であるとされています。学校は、こうした授業を通じて、全ての子どもに学びによる満足感や達成感、成就感を実感させなければなりません。教材研究に邁進し、毎時間の授業を丁寧に計画・実施するとともに評価・改善を重ねるPDCAを徹底し、よりよい授業を構築する努力が、確かな学力の定着につながります。本校でも、子どもたちの学び合い高め合いを充実させ、一人一人の子どもの主体性を引き出す魅力的な授業づくりを推進しましょう。また、個人や学年での教材研究、校内研究、各種研究会・研修会等に積極的に臨み、充実した授業を実施しましょう。

小平市教育振興基本計画基本的施策

①確かな学力の向上 ⑥教員の資質向上

3 自他を認め、尊重し合う心の教育

人間尊重の精神、思いやりの心、自然愛護、郷土を愛する心、社会のルールやマナーを守る態度などの豊かな心を育てることが、学校教育の重要な役

割と考えられます。豊かな心と学力が子どもたちにきちんと身に付いてこそ、心身ともに健康で知・徳・体の調和のとれた人間に成長します。

豊かな心を育てる基盤は、子ども相互、子どもと教職員の良好な人間関係です。自分のよいところや個性が、周囲から認められているという存在感や安心感が、自分の力を発揮し、人間性を高めていこうとする原動力になります。一人一人のよさや努力を認め生かす学級経営、各教科等の学習、異学年や地域の方々との交流、挨拶や返事、話の聞き方などの基本的な生活習慣の育成や規範意識の向上を通じて、豊かな心を育てましょう。

また、新学習指導要領で新設した「特別の教科 道徳」の実施を見据え、校内研究を通じて「考え、議論する道徳の授業づくり」について理解を深め、実践していきましょう。

小平市教育振興基本計画基本的施策

③豊かな心の育成 ⑤共生と地域・社会貢献意識の醸成

「保護者・地域の目指す姿」を実現するために

保護者や地域の方々は、学校に何を求めているでしょうか。それを把握し、それに応えていくことが、保護者や地域の満足感につながっていきます。

1 安全・安心で落ち着いた学校の雰囲気づくり

子どもたちはもとより、学校に我が子を通わせる保護者や学校を見守り続けている地域の方々にとっては、学校が安全かつ安心な場所であることが何よりの願いです。また、安全・安心な学校は、子どもたちの安定にも不可欠です。ぜひ、落ち着いた雰囲気の学校にしていくために、子どもたちへの生活指導や学校環境整備を徹底していきましょう。

2 何事にも前向きにチャレンジする気運の醸成

私が着任して以来3年の間、本校では常にチャレンジする意欲を高めながら、あらゆる教育機会を可能な限り活用してきました。具体的には、夏季休業期間中の作品応募、地域協力者の学校教育への活用、高齢者交流室との交流活動の充実等が挙げられます。また、音楽会の実施等、学校行事を始め様々な教育活動の拡充にも取り組んできました。さらに、地域の諸行事等にも関係機関等と連携しながら積極的に参加し、成果をあげてきました。こうした何事にもチャレンジする気運を醸成させ、保護者・地域の方々のニーズに応えられるようにしていきましょう。

3 保護者・地域と相互に支え合う主体的な連携

保護者や地域の方々は、学校とのコミュニケーションの機会を常に求めているものです。また、学校としても保護者や地域の方々の協力をいただかなければならないことが様々あります。学校と保護者・地域の方々が互いのニーズに応えながら、相互に支え合える関係づくりを進めるべく、積極的かつ主体的な連携に努めましょう。

「教職員の目指す姿」を実現するために

学校は何よりも子どもたちのために存在するものですが、教職員にとっても大切な場所です。教職員が、良好な人間関係のなかで、自己実現・自己成長を図れる職場にすることが、充実した教育実践を展開するために重要です。

1 全体の奉仕者としての自覚の徹底

互いに職域や職務の違いを尊重し合い、公教育に携わる「全体の奉仕者」として、自己の使命を自覚し、その職務の遂行に当たっては、全力を挙げてこれに専念するとともに、服務規律を遵守しましょう。

2 教職のプロ・組織人としての自信

各職域では、その道の専門職・プロとして絶えず研究と修養に努め、常に広く求める心、学び続ける姿勢を失わないようにしましょう。また、学校をつくる組織の一員としての自覚をもって、前向きに職務を遂行し、成果をあげられるように努めましょう。

3 職務を遂行するための心身の健康

いつまでも元気で楽しく仕事が続けられるように健康管理に気を配り、職員相互の親睦を深めていきましょう。

◇ 今年度、教員の授業力や生活指導力の向上を目的として、週1回程度で「校内OJT研修会」を実施し、校内OJTの一層の充実を図ります。教務主幹教諭及び研究主任が年間研修予定を計画し、各研修会では主幹教諭もしくは主任教諭が、教科指導や生活指導に関して、自身の経験や研修等を通じて身に付けた指導方法等を全ての教員に伝達する講習や演習等を行います。

この「校内OJT研修会」を通じて、若手教員はもとより、主幹教諭及び主任教諭も自らの指導方法等を見つめ直し、その改善を図ります。

教育目標の達成を目指して

目指す学校の姿の具現化に向け、次の3つの教育目標を掲げています。

考える子	…	自分の考えをもち、判断し、行動できる子ども
やりぬく子	…	元気でたくましく、最後まで頑張る子ども
<u>思いやりのある子</u>	…	<u>相手の立場や気持ちを考え、共に生きる豊かな心をもつ子ども</u>

今年度は、重点目標を「思いやりのある子」としています。自他を思いやり、認め、励まし合い、尊重し合える豊かな心の育成は、自らよく考え、判断し、主体的に行動できる力、そして何事にもくじけずにやりぬく強い心の育成にもつながります。つまり、重点目標の達成により、他の目標の具現化も図れるものと考えます。

この教育目標を達成するためには、全ての学級で、子どもたちが関わり合いを通して、認め合い、高め合いながら、主体的に生き生きと学ぶ授業づくりに努めることが大切です。そして、全ての教職員が、常に一人一人の子どもの成

長を願い、子どもたちの思いを受けとめ、寄り添いながら指導していかねばなりません。そのために、小平市研究推進校の指定を受けた「特別の教科 道徳」の研究に主体的に取り組むとともに、研修に積極的に取り組み、校内OJTにより研修成果の還元を図り、また自己啓発にも一層努めましょう。

特色ある学校づくりに向けて

これまでの本校の教育実践から、よい実践を継続・発展させるとともに、新たな発想で本校の課題に迫る実践を開発・工夫していきます。今年度は、過去の本校の研究実践を踏まえ、キャリア教育で目指す「自立」・「自律」・「協働」のもと、小・中連携教育を推進し、長期的な視点で児童一人一人の個性の伸長を図り、一貫した適切な指導・支援を行います。また、特別支援教育の視点から、全教職員で一人一人の児童を十分に理解し、個々の学習や生活、集団としての生活の指導・支援にあたります。

小平市教育振興基本計画個別計画等の取組

- ①小・中連携教育 ②特別支援教育

1 自立（確かな学力の向上）

（1）基礎的・基本的な学力の定着

校内研究や校内OJTにより教員の授業力向上を図るとともに、習熟度に応じた少人数指導や個に応じた指導を充実し、指導と評価の一体化を推進します。また、【特別支援教育の推進】の視点から「誰にでもわかる授業」を積極的に実践し、児童の基礎的・基本的な学力の一層の定着を図ります。

（2）言語活動の充実

本校の過去の研究実践を生かし、言語活動を各教科等の指導計画に位置付け、授業の構成や進め方を改善しながら、「自分の思いや考えを言葉で正確に伝えられる力」を育成します。

（3）自ら学び、考え、行動する力の育成

「主体的・対話的で深い学び（アクティブ・ラーニング）」に立脚した問題解決的な授業づくり、学び合い高め合う授業づくりを推進します。児童一人一人の個性と創造力、思考力、判断力、表現力等を育成し、生涯にわたり主体的に学び続ける児童を育てます。

小平市教育振興基本計画基本的施策

- ①確かな学力の向上 ④自立心の養成 ⑥教員の資質向上
⑩生涯学習の推進

2 協働（豊かな心の充実）

（1）道徳教育の充実

「特別の教科 道徳」の実施を見据え、「考え、議論する道徳の授業づくり」を推進するとともに、系統的な指導や指導と評価の一体化を図ります。道徳科と教育活動全体との関連を図り、自他を尊重する豊かな心を育てます。

(2) 多様な交流活動の展開

意図的・計画的に異年齢の交流活動を行うとともに、若草学級・小平高齢者交流室との交流活動や副籍交流を積極的に展開することで、様々な人とお互いに認め合い、共に学び合う態度を育てます。また、今年度の開校90周年に関連させて、「にこにこ90」と称する子どもたち同士や地域との交流活動を、平成29年度から平成30年度までの2年間で90回実施します。

(3) 勤労・奉仕活動の充実

教育活動全体を通して、勤労の尊さや奉仕活動の大切さを体得するとともに、協力・協働して物事に取り組む態度を育てます。

(4) 読書活動の充実

継続的な読書活動の推進と多様な指導の展開を図り、豊かな感性と情操をはぐくみ、児童の主体的、意欲的な読書活動を推進します。

小平市教育振興基本計画基本的施策

- ③豊かな心の育成 ⑤共生と地域・社会貢献意識の醸成
- ⑮多様な主体との連携と施設のあり方の検討

3 自律（たくましく生きる力の育成）

(1) 健康・安全教育の充実

生命を尊重し、明るく活力のある児童を育てます。また、体力の向上を図り、生涯を通して健康で安全な生き方を実践できる能力や態度を育てます。また、業間体育の充実を図るべく、長縄旬間、短縄旬間、持久走旬間を設定し、計画的に体力向上を図ります。

(2) 生活指導の充実

個性の伸長を図りながら、社会生活の基本的なルールやマナーを身に付け、社会の一員としての自覚を高めます。また、学校生活の様々な場面で、自己選択や自己決定の場や機会を与え、自己実現を図る能力と態度を培います。さらに、家庭・地域と連携を促進し、学校における取組を充実させます。

小平市教育振興基本計画基本的施策

- ②健やかな体の育成 ④自立心の養成 ⑧家庭教育への支援
- ⑪生涯学習の推進 ⑬生涯スポーツの推進

【特色ある教育活動の具現化に向けて】

9年間の義務教育を通して、児童・生徒一人一人の能力を伸ばしつつ社会において自立的に生きる基礎を培うため、小・中学校義務教育の9年間を連続的な期間として捉え、**小平市教育振興基本計画基本的施策**の具現化を図ります。

(1) 朝学習の時間では基礎・基本の定着を図る取組を、朝読書の時間では豊かな感性と情操をはぐくむ取組を継続して行います。

(2) 若草学級、小平高齢者交流室との交流や異年齢集団の活動、副籍交流などを通して、自他を大切にする取組を継続して行います。

- (3) 「体力向上・運動能力、生活・運動習慣等調査」から児童の実態を把握し、体育の活動を充実させ具体的な取組を実践します。また、小・中連携教育のなかで生涯にわたって運動に親しむ資質や能力を培います。
- (4) 近隣の幼・保・小・中・高・大学等との異校種間の連携を一層強化し、互いの教育力の相乗的な効果を発揮させます。また、仲町図書館、小平青年会議所、二小地区青少対等、地域の教育的資源や教育力を活用し、生きる力の育成と社会に貢献しようとする児童の育成を図ります。

小平市教育振興基本計画基本的施策

- | | | |
|------------|-------------|--------------|
| ① 確かな学力の向上 | ② 健やかな体の育成 | ③ 豊かな心の育成 |
| ④ 自立心の育成 | ⑨ 地域教育の充実 | ⑩ 教育環境の整備 |
| ⑪ 生涯学習の推進 | ⑬ 生涯スポーツの推進 | ⑭ 郷土愛と後継者の育成 |

学校予算の執行について

事務主任を中心に、学校配当予算額の中で適正な執行を行います。特に、本校のこれまでの予算執行状況等を分析し、その分析を基に計画的、効果的な予算の活用を図ります。併せて、節約などの努力によって、一層経費抑制に努めます。なお、予算請求し認められたものは、迅速に執行し、活用を図ります。また、事務主任の自己申告目標達成のため、副校長とともに支援・協働し、円滑な事務運営を図ります。

おわりに

これまで多くの教職員の方々が、たゆまぬ努力を積み重ね築きあげてきた本校の歴史と伝統を大切に受け継ぎながらも、保護者・地域や社会の要請を受け、またこれからの時代を展望し、一層創意と工夫を加え、学校教育目標の達成に向けて、共に力を合わせ、努力していきましょう。

また、平成 30 年度も「目指せ 100%！小平二小の『あいうえお』」の徹底を目指していきましょう。

【子どもたちの学校生活の目標】

目指せ 100%！小平二小の「あいうえお」

㊦いさつ ㊧じめなし ㊨つくしさ ㊩が お ㊪もいやり

【教職員による学校づくりの視点】

- ・ 子どものために学校はある
- ・ 人を思いやる心を育て、伸ばす
- ・ 教育目標達成のために機能的、組織的な活動を推進する
- ・ 実践の中から共通理解を進める
- ・ 地域の期待に応える
- ・ 生命・健康・安全を大切にする
- ・ 授業を教師の生命と考える
- ・ 研修・研究を教育実践に生かす
- ・ 専門職としての誇りと自信をもつ

【教職員が児童と関わる視点】

- ・ この子のたちと出会うために、自分はこの仕事に就いた
- ・ かけがえのない存在として認める
- ・ 共感をもち、温かさとしげしげで接する
- ・ よさを引き出し、見守り生かす
- ・ 児童相互の関わりを大切にする
- ・ 期待をもって関わろうとする
- ・ 一人一人の身になってみようとする
- ・ 一人一人の違いを認め個に応じる
- ・ 有用感、安心感を与える
- ・ 焦らず接するようにする
- ・ 子どものよい手本になろうとする

【指導する視点】

- ・ 生命に関わる時
- ・ 人に迷惑をかけた時、人を不愉快な気持ちにさせたりした時
- ・ ルールは最小限に、ただし守らせるべきものは徹底的に
- ・ 考えさせ、任せる場面を多く
- ・ ほめ上手に（ほめ言葉をたくさん、ほめるポイントを逃さずに）
- ・ 人権に関わる時
- ・ 初出事項（授業の中で丁寧に）